



韓国総選挙\_投票所ネギ持ち込み禁止？ 岸田首相訪米国賓扱い\_おみあーは何しに？

高円寺の桜ももうそろそろ終わり、今年は久しぶりに入学式シーズンでのサクラが満開、花ふぶきの中をピカピカの小学1年生たちが両親に手を引かれて元気よく道を歩いていました。昨日から急に気温が上がり、今日は25℃とか、半袖Tシャツで歩ける陽気になっています。明日から2泊3日で下関へ、仕事ですがちょっとだけ旅気分を満喫してきたいと思っています。

韓国では先日、国会議員を選ぶ総選挙で野党が圧倒的勝利をおさめました。選挙戦の中、ネギが主役に躍り出て、選挙民が頭にネギをつけて野党を応援していました。事の発端は尹錫悦大統領がスーパーの視察で1束約100円の長ネギを見て、“合理的な価格だと分かる”と言ったとか。この時尹大統領が手にしたものはあくまで特価品で通常はその数倍だったとか、世間知らずだと猛批判を喰らったそうです。韓国語では“長ネギ”と“大破”がテパという同じ発音だそうで、物価高に苦しむ選挙民が長ネギを手に“与党を大破”をアピール、おまけに投票所にネギの持ち込みを禁止したとか、それも反感を買って与党ボロ負けだったそうです。韓国は大統領を降ると必ずと言っていいほど、逮捕、投獄を繰り返しています。この大統領もいずれその運命になるのかな？

大谷選手の元通訳水原一平氏の、横領額が6.8億円と報じられていましたが、米連邦地検の捜査で24.5億円を大谷選手の口座から引き出していたとのことで、銀行詐欺容疑で刑事訴追されたそうです。なんでも違法賭博で勝った金額218億円、負けた金額280億円、差し引き62億円の負けというトンデモないことをやっていたようです。詳しいことは分かりませんが、携帯の履歴には、大谷選手とのやりとりに賭博やカネの会話は一切なかったとのことで、疑惑をかけられていた大谷選手の潔白が証明されたので、個人的にはひと安心です。キャンブル依存症だというのは分かりませんが、道徳の教科書にも取り上げられた、あれだけ信頼関係がこんな顛末になってしまったことがザンネンでなりません。水原氏はこんな借金地獄の中で、大谷選手に返済でき

るのでしょうか。それともケタが違うほど稼いでいる大谷選手には痛くもかゆくもない金額なんのでしょうか？やっぱ住んでる世界が違いすぎます。

裏金問題も中途半端のまま、岸田さんがバイデン大統領に“国賓”扱いとして招かれて米国に行ってるようです。ニュースの画像では岸田さん終始ニコニコ、スピーチも帰国子女らしく比較的流暢な英語でジョークもふんだんに交えて、議会でもヤンヤンヤのスタンディング・オベーション、日本でのあの暗さ、陰湿さはどこいった？の世界です。東京新聞“本音のコラム”斎藤美奈子さんの論評です。

何しに行った？ 4月10日付

齋藤 美奈子 — 文芸評論家 —

本日10日に予定されている日米首脳会談。岸田首相は9年ぶりの国賓待遇だそう。裏金問題を半端にほったらかしての外遊。ムカつく話だけれども、問題はこのタイミングで首相は米国に何をしに行ったかだ。

こちら裏金問題にかき消された感があるけれど、4日、防衛省設置法などの改正案が衆院で審議入りした。陸海空自衛隊の実働部隊を一元的に指揮する「統合作戦司令部」を新設する法案で、同時に設けられる新ポスト・統合作戦司令官は米インド太平洋軍司令官のカウンターパートに当たる。つまり法案が通れば自衛隊と米軍とのより緊密な軍事協力が可能になる。別にいえば自衛隊が米軍の戦争に協力しやすい体制が整うのだ。

CNNの7日のインタビューで首相は「我々は歴史展転換点に直面している」の理由に「日本が防衛力を抜本的に強化する決定を下した」と語った。専守防衛の原則から離れ続ける自公政権。安倍政権下での集団的自衛権の一部行使容認(2014年)、岸田政権下での敵基地攻撃能力の保有(22年)に続くこれは重大な政策転換だ。

統合作戦司令部の新設は米国の要望ともいわれており、今度の訪米はこの件が着々と進んでいることの報告としか思えない。新司令部は米国へのビッグなお土産か。国賓待遇はその返礼か。晩餐会は寄りの報道にだまされないで。

YOASOBI や車いすテニスの国枝選手なども同行しているようですが、何をするために同伴したのかな？笑ったのは一笑っちゃダメかー、米国の新聞やテレビではほとんど岸田さんの訪米が報道されてないとのこと、誰も彼を日本の首相だなんて知らないというのが米国の現実のようです。大谷選手の知名度には足元にも及ばないようです。こちらはちょっと異なる視点から、本日の東京新聞朝刊“筆洗”です。

筆洗 4月14日付

進学、就職など新たな出会いの季節だろう。初対面の人とどうやって親しくなるか。お悩みの方もいるだろう▼幼いころの「共通の話題」はいいきっかけになるらしい。子どものときに見たテレビ番組や聴いた音楽。自分と似た経験をしてきたのだなと思わせれば相手は安心する。心を開きやす

くなる▼周到に計算された例がある。岸田首相の米連邦議会での演説である。冒頭、幼少期にニューヨークで暮っていた経験に触れている。へえ米国で暮っていたのか。米国民は興味を持ったはずだ。続けて子どものときに観戦したヤンキースやメッツの名に触れる。野球好きの米国の方には親近感を与える魔法の言葉だろう▼とどめは米国の懐かしのアニメ番組「プリントストーン(『恐妻天国』)」か。「今でも懐かしく感じる」と語り、主人公の口癖の「ヤバダバドゥー」まで持ち出せば、米国の議員には岸田さんが親しみやすい人物に映ったはずである▼さて、演説の主題は防衛協力を柱とした新たな日米関係である。「米国は独りではありません。日本は米国と共にあります」。首相の言葉を聞いてこっちもあのアニメを思い出す▼トンマな主人公フレッドの言動にいつも振り回される気弱な親友バーニー。米国がフレッドなら日本は…。米国では受けた演説なれど、日本で聞いている人には「ヤバダバドゥー」とははしゃげまい。

持ち上げているようで、最後にはちゃんと落としています。さすがコラム“筆洗”の担当者瀬口晴義さん、2009年から毎日一人で書き続けているというから驚きというか尊敬です。ルンルンの岸田さんご本人は、これで少し支持率が上がるかと思いきや、また最低を更新したようです。どこにでも何をしてもダメな男っているんですね。

再び小池都知事のカイロ大卒—しかも成績トップ—の学歴詐称問題が再浮上しました。何年か前に、カイロで小池さんと同居していた女性を書いたノンフィクション“女帝小池百合子”を読みましたが、あの程度の語学力や生活態度が真実であれば、到底単位は落としているはずだし、2年か3年で中退というのがうなずけます。今回の文春砲は小池さんの元側近中の側近だとか、学歴詐称の相談に受けて指南したとのこと。二人の間に何か決定的な決裂でもあったんでしょうかね。どうして誰もカイロ大に問い合わせないのかな？興信所とか私立探偵に頼んだら…。東京新聞“本音のコラム”三木義一さんが、こんな見方をしています。

側近からの爆弾 4月11日付

三木 義一 — 青学大名誉教授 —

「ご隠居、小池百合子さんの学歴詐称疑惑について、『文芸春秋』5月号に爆弾発言があったんで。この側近のお方をご存じで？」

「おお、小島敏郎さんじゃの。もと環境省の官僚で、大学教員時代には一緒に大学の不正と戦ってくれたの。正義感の強いお方じゃ」

「詐称って、あれですか？一番で卒業したって件、すげえな〜って、思っちゃいましたぜ」

「何の一番かは知らんが、留学先で現地の学生を抑えてトップになるのはあり得ない。数式だけの試験ならともかく、言語に係わる領域ではあり得ない話だよ。だから最初から選挙対策の下手な宣伝だと思ってたの」

「てえと、大学を卒業したという件ですか？」

「一緒に留学した人が実名で告発していたが、小池さんはカイロ大学の声明を出して、事実であることを証明したことになったの。ところが、あの証明は日本のジャーナリストが書いたそうさ」

「ええ～、そんなことを側近が曝露。こりゃ大変というか、辞職もんですぜ」

「そうなの～、おそらく神宮外苑再開発に関しての対立があり、小島さん達は許せなくなったのかもしれない。学歴詐称といえ、政治家の資質に係わる大問題だ」

「側近の人が怒るようなことしたのかな？」

「再開発でしなきゃいいがの～、即金で」

でも小池さん、相変わらず何だかんだと開き直ってへ理屈こいています。どれだけツラの皮が厚いのかね。そろそろ年貢の納め時か、真実はどこにあるのか？ 乞うご期待！こちらも今朝の東京新聞“本音のコラム”前川喜平さん、“とどめの一発”です。

政治家小池百合子の命運 4月14日付

前川 喜平 — 現代教育行政研究会代表 —

小池百合子東京都知事の学歴詐称疑惑が再燃している。火を付けたのは小池氏の元側近小島敏郎氏とカイロでの元同居人北原百代氏が文芸春秋5月合に寄せた手記だ。

小島氏によれば、前回の都知事選前の2020年5月末に出版された石井妙子著「女帝 小池百合子」でカイロ大卒業の学歴を虚偽と指摘され狼狽えた小池氏が、小島氏の発案により、元ジャーナリストA氏文案を作成させて、小池氏のカイロ大学卒業を証する同大学長名の「声明」を作成、駐日エジプト大使館のフェイスブックに載せてもらったのだという。これは私文書偽造罪に該当する疑いがある。

「声明」は単に小池氏の学歴を証するだけでなく、卒業証書の信憑性に疑義を呈することは「名誉棄損であり、看過することができない」と警告し、モハメドオスマンエルコシト学長のサインと大学の公印らしきものが記されていた。同大学のホームページを見ると、確かに現学長の名は「モハメド・コシト博士」となっている。

犯罪の疑いが生じた以上、検察はカイロへ飛んで大学当局及びコシト学長から事情聴取すべきだ。検察が動かないならメディアが行って真相を確かめるべきだ。

選挙公報で学歴を偽れば公職選挙法違反にもなる。政治家小池百合子の命運が尽きる日も近いかもしれない。

前川さんの書きっぷりがもしご不満なら、法的に訴えたらいい。でもそれをしたら自滅しちゃうから大人しくブリッコしているのかな？ おそらく早めに決着がつくだろうとは思いますが…。

週末の大谷選手のバッティングはサイコーでした。松井秀喜さんに並ぶ大リーグ通算175号ホームラン、日米通算1000安打、松井さんより半分くらいの打席数、年齢も6歳下、まだまだ大記録更新は間違いなし、大谷伝説はまだまだ続きます。